

平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社パピレス

コード番号 3641 URL <http://www.papy.co.jp/info/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松井康子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務・経理部長

(氏名) 須永喜和

TEL 03-3590-9460

四半期報告書提出予定日 平成26年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	2,063	32.2	243	51.6	246	48.3	159	53.4
26年3月期第1四半期	1,560	19.2	160	57.4	166	75.4	104	74.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	63.03	62.96
26年3月期第1四半期	41.45	41.11

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	4,481		2,809			62.7
26年3月期	4,293		2,661			62.0

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 2,809百万円 26年3月期 2,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
26年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,107	24.6	334	4.5	345	4.4	222	7.7	87.80
通期	8,268	19.5	502	△23.9	524	△25.1	338	△22.0	133.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	2,581,720 株	26年3月期	2,581,720 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年3月期1Q	45,888 株	26年3月期	45,888 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	2,535,832 株	26年3月期1Q	2,513,632 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、景気の緩やかな回復基調が続きましたが、弱い動きも見られます。企業収益及び雇用情勢は、ともに改善しています。一方、個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から、弱い動きとなっています。

通信端末の市場環境は、従来型携帯電話の契約数が減少する一方で、スマートフォンの普及が進んでいます。MM総研によれば、平成26年3月末の端末契約数は、スマートフォンが5,734万件（前年度末比1,376万件増）、携帯電話が6,468万件（前年度末比867万件減）となっています。同社は、平成31年3月末のスマートフォン契約数は、1億300万件に達すると予測しています。

電子書籍の市場環境は、新プラットフォーム（スマートフォン、タブレット等）向け電子書籍市場が、前年に引き続き、急速に拡大しています。株式会社インプレスビジネスメディア「電子書籍ビジネス調査報告書2014」によれば、平成25年度の電子書籍市場規模は、936億円（前年度比28.3%増）と推計されています。新プラットフォーム向け市場が、789億円（対前年比114.4%増）、携帯電話向け市場が、140億円（対前年比60.0%減）となっています。同社は、平成30年度の電子書籍市場規模は、平成26年度の2.9倍の2,790億円程度になると予測しています。

当社を取り巻く事業環境は、大手企業の参入をきっかけとして、競争が激化しています。この結果、掲載コンテンツの需要が増加し、出版社等のコンテンツホルダーからの仕入コスト上昇のリスクが高まっています。また、集客を強化するための広告宣伝や販促コストも増加傾向となっています。

このような環境の中で、当社は顧客第一主義のもと、サービスの向上と差別化によって、売上高を伸ばすとともに、収益体質の改善に努めています。

売上原価については、コンテンツホルダーへのきめ細かな営業活動によって、これまでの仕入コストの比率を維持し、その上昇リスクを抑制しました。販売費及び一般管理費については、広告宣伝や販促のコストは増加したものの、継続的な内容の見直しを行い、その効率化を進めました。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高は2,063百万円（前年同期比32.2%増）、営業利益は243百万円（前年同期比51.6%増）、経常利益は246百万円（前年同期比48.3%増）、四半期純利益は159百万円（前年同期比53.4%増）となりました。

当社の事業は電子書籍事業のみであり、事業所も本店のみとなっているため報告セグメントはありません。以下、事業の業績を示すと次のとおりであります。

#### <電子書籍事業>

##### ① 本店による電子書籍販売

当第1四半期累計期間においても、引き続き3P（プロモーション・プレイス・プロダクト）戦略による販売拡大を図りました。プロモーション戦略とは、広告やポイント付与等を用いた集客施策を指し、プレイス戦略とは、サイト改良やサイトを利用する上での、サービス内容改良等によるユーザー利便性の向上施策を指し、プロダクト戦略とは、掲載冊数拡充などのコンテンツ施策を指します。

プロモーション戦略としては、効果の高い広告の選定やポイント付与施策等、購買に結びつく集客に注力しました。Twitter、Facebookを活用してのPR企画も継続して行っております。また、累計販売冊数1億冊突破記念として、新規入会者にポイントを付与する、「最大1億円分入会キャンペーン」を実施しています。

プレイス戦略としては、適宜、サイト改良を実施し、使いやすいサイト構築、電子書籍を閲覧しやすい仕組みづくりを行いました。また、ビジネスパーソン向けの新しい電子書籍サイト「パピレスプラス」を開始しました。書籍を分冊し、章や記事単位で販売する新方式を導入しています。多忙なユーザーでも、欲しい情報だけを、すぐ簡単に読めるサービスを目指しています。

プロダクト戦略としては、コミック、小説・ノンフィクション、ビジネス書、趣味実用書等、幅広いジャンルの書籍を入荷しました。株式会社白泉社の「それでも世界は美しい」、株式会社スクウェア・エニックスの「一週間フレンズ」等、アニメ映像化された作品も掲載しています。

また、他社との差別化戦略として、当社独自コンテンツの開拓にも注力しています。コミックを動かして見せる「コミックシアター」、文章を読みやすく再構成した「絵ノベル」等の、電子ならではの形態となる「次世代ブック」の増産を行っています。さらに、出版社との共同制作や、電子書籍作品投稿サイト「upppi」を活用しての、オリジナルコンテンツ配信を進めています。海外展開としてコンテンツ翻訳も行っています。

この結果、当第1四半期累計期間における本店による電子書籍販売の売上高は1,982百万円（前年同期比31.9%増）となりました。

## ② 提携店を通じた電子書籍販売

ヤフー株式会社、Amazon社等のポータルサイトやECサイトとの提携による、電子書籍委託販売や取次販売を行っております。また、海外のインターネットサービス会社と提携し、海外への販売活動を行っています。

この結果、当第1四半期累計期間における提携店を通じた電子書籍販売の売上高は75百万円（前年同期比34.3%増）となりました。

## ③ その他

電子書籍の図書制作売上、自社制作コンテンツのロイヤリティ収入等を計上しております。

この結果、当第1四半期累計期間におけるその他の売上高は5百万円（前年同期比425.7%増）となりました。

（注）「Twitter」は、Twitter, Inc. の商標です。

「Facebook」は、Facebook, Inc. の商標です。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

流動資産は、前事業年度末と比べて、212百万円（5.2%）増加し、4,331百万円となりました。

主な増加内容として、現金及び預金が86百万円増加、売掛金が64百万円増加、有価証券が24百万円増加しています。

固定資産は、前事業年度末と比べて、24百万円（13.9%）減少し、149百万円となりました。

主な減少内容として、投資その他の資産が24百万円減少しています。

なお、当第1四半期累計期間において、重要な設備の新設および除却はありません。

この結果、資産合計は、前事業年度末に比べて、187百万円（4.4%）増加し、4,481百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前事業年度末と比べて、40百万円（2.5%）増加し、1,672百万円となりました。

主な増減内容として、買掛金が92百万円増加、未払金が61百万円増加、未払法人税等が120百万円減少しています。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて、40百万円（2.5%）増加し、1,672百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前事業年度末と比べて、147百万円（5.5%）増加し、2,809百万円となりました。

主な増減内容として、四半期純利益159百万円の獲得及び配当金12百万円の支払いを計上しています。

この結果、自己資本比率は、62.7%（前事業年度末は62.0%）となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想につきましては、売上高は8,268百万円、営業利益は502百万円、経常利益は524百万円、当期純利益は338百万円を予想しています。

今後の電子書籍市場は、スマートフォンやタブレット向けを中心に、拡大が予測されています。その一方で、関連大手や、その他様々な分野の競合他社が乱立し、競争が激化しています。このような事業環境において、当社は、中長期的な成長を意図して、積極的に先行投資を実施し、シェアの拡大を図ってまいります。

当第1四半期累計期間においては、営業努力による仕入コストの抑制等から、売上原価が想定より低く抑えられました。また、広告媒体の見直しにより、広告宣伝費が抑制されていること、販売促進費が想定より低かったこと等により、販売費及び一般管理費が低く抑えられています。

当事業年度を通しての業績予想は、今後、オリジナルコンテンツの増産や、国内コンテンツの翻訳強化等、積極投資を見込んでおり、平成26年5月14日の決算短信で公表した業績予想を変更していません。

今後、現在公表している業績予想に関して修正する必要がある場合は、すみやかに公表いたします。

なお、上記業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくため、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,775,962	2,862,310
売掛金	959,727	1,023,784
有価証券	245,639	270,112
コンテンツ資産	2,383	2,571
その他	139,894	177,863
貸倒引当金	△3,917	△4,780
流動資産合計	4,119,690	4,331,863
固定資産		
有形固定資産	6,545	6,456
無形固定資産	234	234
投資その他の資産	167,151	143,009
固定資産合計	173,931	149,699
資産合計	4,293,621	4,481,562
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	735,942	828,067
未払金	379,653	441,105
未払法人税等	194,488	74,473
賞与引当金	27,222	18,389
その他	294,458	310,477
流動負債合計	1,631,765	1,672,512
負債合計	1,631,765	1,672,512
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	414,462	414,462
資本剰余金	189,389	189,389
利益剰余金	2,105,383	2,252,527
自己株式	△47,379	△47,379
株主資本合計	2,661,856	2,808,999
新株予約権	—	50
純資産合計	2,661,856	2,809,050
負債純資産合計	4,293,621	4,481,562

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	1,560,630	2,063,644
売上原価	640,495	848,919
売上総利益	920,135	1,214,724
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	468,916	621,421
代金回収手数料	137,525	163,019
貸倒引当金繰入額	2,833	1,807
賞与引当金繰入額	7,892	11,251
その他	142,296	173,671
販売費及び一般管理費合計	759,464	971,171
営業利益	160,670	243,552
営業外収益		
受取利息	723	2,487
退会者未使用課金収益	5,810	3,925
その他	0	—
営業外収益合計	6,534	6,412
営業外費用		
為替差損	779	3,086
営業外費用合計	779	3,086
経常利益	166,424	246,878
税引前四半期純利益	166,424	246,878
法人税、住民税及び事業税	49,293	72,756
法人税等調整額	12,936	14,298
法人税等合計	62,230	87,055
四半期純利益	104,194	159,822

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。